

## 研究・調査報告書

|  |                     |
|--|---------------------|
| 報告書番号  | 担当                  |
| 80   | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| <b>題名 (原題/訳)</b><br>Alcohol consumption, alcohol dehydrogenase and risk of coronary heart disease in the MONICA/KORA-Augsburg cohort 1994/1995-2002.<br>MONICA/KORA-Augsburg コホート 1994/1995-2002 における飲酒量とアルコール脱水素酵素と冠動脈疾患のリスクについて  |                     |
| <b>執筆者</b><br>Heidrich J, Wellmann J, Doring A, Illig T, Keil U.   |                     |
| <b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b><br>Eur J Cardiovasc Prev Rehabil. 2007 Dec;14(6):769-74.  |                     |
| <b>キーワード</b><br>アルコール脱水素酵素 1 C、アルコール代謝、冠疾患、発生学、高密度リポ蛋白、メンデルの無作為化   |                     |
| <b>要 旨</b><br>目的：<br>中等量の飲酒は心血管疾患のリスクを低減させるということについては、十分な証拠が提示されている。最近では、アルコール脱水素酵素 1 C (ADH 1 C) の遺伝子型が冠動脈疾患 (CHD) のリスクにおける飲酒のインパクトに関与するという報告もある。この研究では、ADH 1 C 遺伝子型が、CHD のリスクや高密度リポ蛋白 (HDL) コレステロールレベルに対する飲酒の効果に関与するかどうかを検討する。<br><br>方法：<br>CHD のリスクや HDL コレステロールレベルにおける、飲酒量と ADH 1 C 遺伝子型の結合効果を、Cox 比例ハザードモデルと線形モデルを使用して、解析した。<br><br>結果：<br>遅い代謝を示す 2 対立遺伝子がホモまたはヘテロ接合で、かつ飲酒量が 14g/日以上であると答えた対象者は、CHD のリスクが 64%減少していた (ハザード率比 (HRR) 0.36 ; 95%信頼区間 (CI) 0.16-0.80)。この効果は特に男性で顕著であった (HRR0.27 ; 95%CI0.11-0.67)。飲酒量が 2g/日以上であると答えた女性では、有意なリスクの低減は認めなかった (HRR0.39 ; 95%CI0.07-2.17)。飲酒量と ADH 1 C と HDL コレステロールレベルの間には、有意な相互関係は見られなかった。<br><br>結論：<br>この研究では、アルコール脱水素酵素は冠疾患のリスクにおける飲酒量の効果に関与した。この結果は、CHD リスクにおいて飲酒が防御的に働くことを支持し、飲酒と CHD リスク低下の因果関係を示唆した。飲酒と HDL コレステロールの関係における ADH 1 C の関与は解明されなかった。 |                     |